

ドイツの電力システム改革 と日本の電力自由化

ゲスト：ふくもとまさお（ジャーナリスト・ドイツ在住）

Green People's Power

グリーンピープルズパワー株式会社

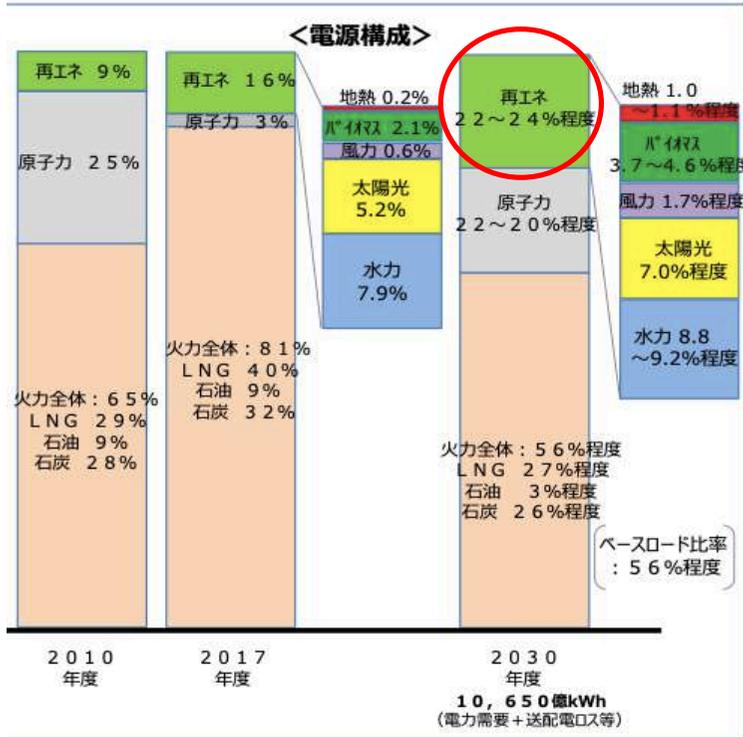
東京都新宿区新宿2-4-2カーサ御苑903

<https://www.greenpeople.co.jp>

現在の2030年エネルギー目標

(参考) 「エネルギーミックス」実現への道なり

7



(kW)	導入水準 (18年12月)	FIT前導入量 +FIT認定量 (18年12月)	ミックス (2030年度)	ミックスに 対する 導入進捗率
太陽光	4,870万	7,830万	6,400万	約76%
風力	370万	960万	1,000万	約37%
地熱	54万	60万	140~ 155万	約37%
中小 水力	970万	990万	1,090~ 1,170万	約86%
バイオ	380万	1,100万	602~ 728万	約58%

太陽光発電は、すでに目標超え。FITと系統制約で抑えるつもりが・・・。

風力発電を低く据え置きたい政府だが、2020年のFIT認定量でほぼ到達。これに洋上風力を追加すれば上回る

日本の国内資源（森林間伐材）では、こんなには発電できない。輸入ペレットやパームオイルへの道が敷かれている。

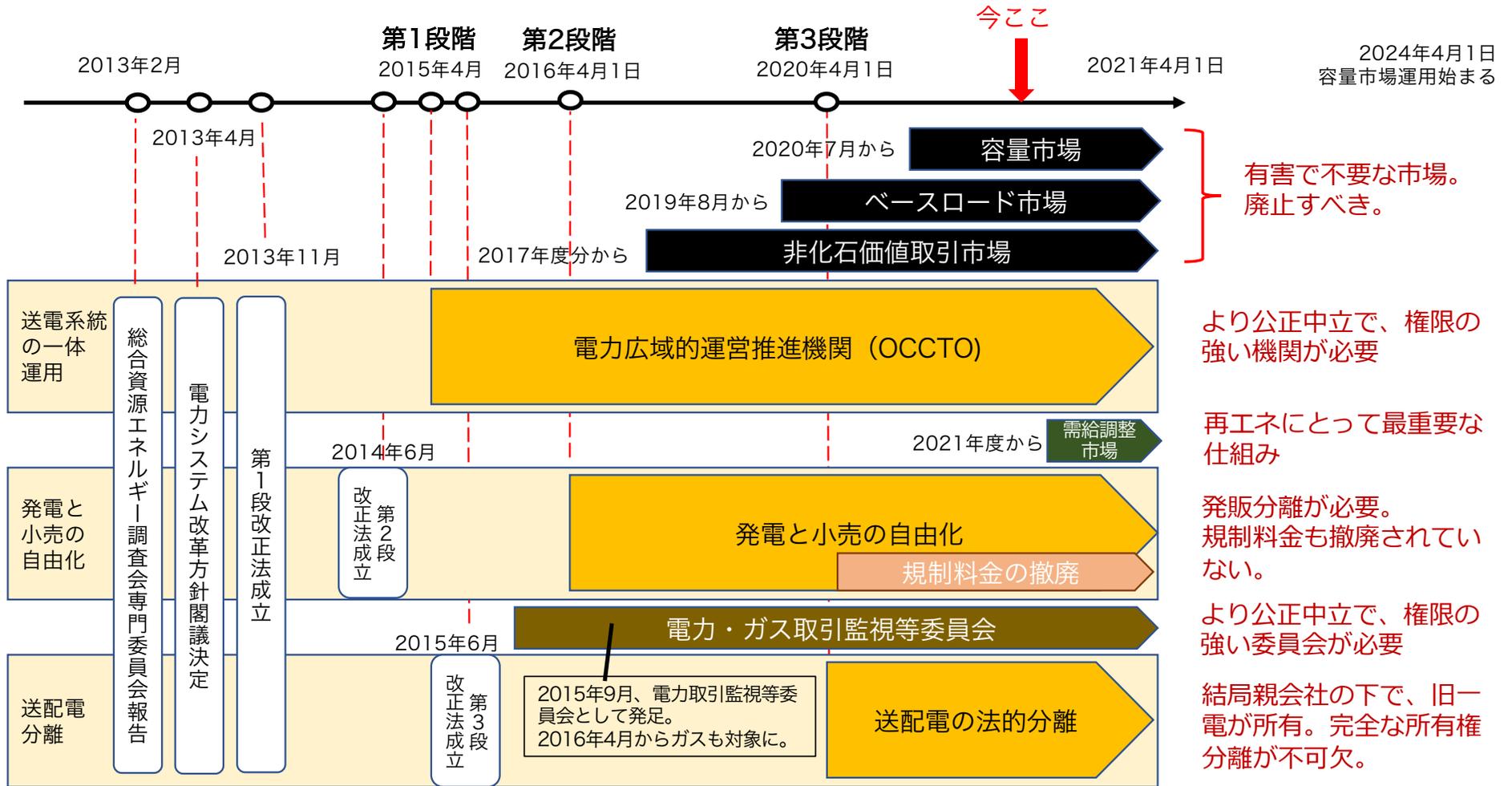
※バイオマスはバイオマス比率考慮後出力。
 ※改正FIT法による失効分（2019年1月時点で確認できているもの）を反映済。
 ※地熱・中小水力・バイオマスの「ミックスに対する進捗率」はミックスで示された値の中間値に対する導入量の進捗。

2050年カーボンニュートラルへの道筋についての今後の検討の枠組み（案）

- **電力部門**の脱炭素化を進める上では、**脱炭素技術として確立した再エネ、原子力を最大限活用すべきではないか**。その上で、CCSやカーボンリサイクルといった次世代の技術が必要となる火力発電、サプライチェーンの構築などが必要となる水素発電などの**選択肢も追求すべきではないか**。
- 他方、これらを導入拡大する上で、再エネにおいては、調整力や送電容量確保などの課題、原子力においては国民理解、安全性向上などの課題、その他の選択肢においてもイノベーションの必要性など様々な課題が存在する。そのため、まず**それらの課題と対応方針を議論すべきではないか**。
- **産業・民生・運輸（非電力）部門**については、**構造的・技術的（既存）に脱炭素化が難しい領域が存在**するが、EUや英国もCCUS/カーボンリサイクル等のイノベーションを織り込んでいるのと同様、日本においても**イノベーションの追求など取組の方向性を議論すべきではないか**。

- 1) **原子力活用**・・・再エネだけで大半の電力供給は可能だが十分な投資が必要。原子力の推進派、その資源を奪い、再エネもダメにする。今こそどちらに資源を投入するか決めるとき。
- 2) **CCSやカーボンリサイクル**・・・石炭火力のコストを上昇させ、さらなる競争力低下。座礁資産を増やすだけ。
- 3) **水素発電**・・・コストパリティ13円/Nm³は困難。インフラもゼロからの出発。EUで進む、Power to Xなら。
- 4) **再エネの送電容量確保**・・・優先接続を復活すれば送電容量問題は存在しない。火力や原子力が空いてる時に使うだけ。それでは原子力は使えないなら、使わないという選択肢とれば良い。電気は不足していない。
- 5) **原子力への国民理解**・・・必要ない。やめれば良いわけで、無駄な資源をここに使わない。
- 6) **焦点を絞らない総花的な政策**は、政府予算の無駄遣い。何が効果的かを議論すべき。
- 7) **産業・民生・運輸部門で脱炭素化が難しい**・・・基本的に製鉄とセメントでは？

電力システム改革の全体像



2015年11月「電力システム改革について」に基づき、GPPが追加作成。

次回はZOOM忘年会です。

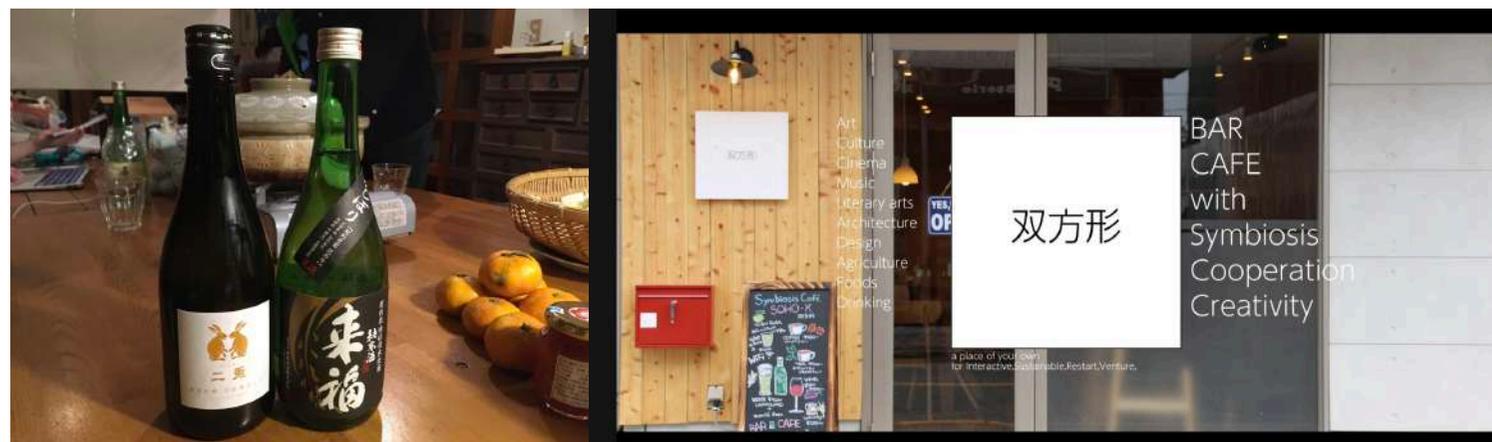
日時 12月15日（火）18時から

会場 ZOOM もしくは町田双方形（リアル会場）

双方形 <https://www.facebook.com/sohokeicafe/>

ZOOM会場は参加費無料（自前で飲食料を調達してください。）

リアル会場は、自前でお支払いをお願いします。



**みなさんの力で、GPPを
大きく育ててください！**



Green People's Power

写真は毎日新聞「ストーリー」より